

共闘目指し民進迷走

民進党の候補者選びは更に迷走した。知名度のある人物が浮かんで消えた。

当初本命とされた蓮舫代表代行が参院選公示前に不出馬を表明し、都議からは民主党政権で総務相を務めた前鳥取県知事の片山善博慶応大教授を推す声が上がったものの、固辞された。その後、都連は党所屬の現・元衆院議員4人に打診するとした一方、都連会長の松原仁衆院議員は増田氏へ

の相乗りを示唆した。

共産などと野党4党で共闘する参院選と並行したことが迷走に拍車を掛けた。

岡田克也代表ら党執行部は「都知事選も4党の枠組みは大事」と繰り返したが、都議会（定数127）での勢力が旧維新を除き14議席しかない都議側からは「存在意義を示すには知事を担ぐ必要がある、それには自公が乗ってくれることが条件」との声が根強かった。

都連は8日、前神奈川県知事の松沢成文参院議員や元経済産業省官僚の古賀茂明氏の擁立を目指す方針を打ち出した。ただ、党内では俳優の石田純一氏に接触する動きもあったという。都議からは「都連の考えが党本部にすっかり伝わっていない。これでは決まらない」との批判も出る。

都議の要望を受け、松原氏は長島昭久元副防衛相を軸に検討する考えを表明する。しかし、保守系の長島氏は野党共闘に否定的で、

都連は11日、古賀氏を招いて立候補を要請した。古賀氏は、11日に正式に出馬表明した宇都宮健児・元日本弁護士連合会会長を念頭に「他候補とも調整して検討したい」と語った。都連幹部は12日にも候補者を決めたという考えを示した。

都連幹部に早い段階で「4党の枠組みでは立候補しない」と伝えていたという。

【柳澤一男、飯山太郎、朝日弘行】